

平成25年5月7日

長崎市議会議長 板坂博之様

長崎市議会議員 佐藤正洋

欧州訪問(ドイツ・モナコ・スイス)報告書

期 間：平成25年4月14日(日)～25日(木)

訪問先及び目的

- ①ドイツ：ヴュルツブルク市との市民友好都市提携など
- ②モナコ公国：世界新三大夜景による交流など
- ③スイス：NPT再検討会議第2回準備委員会参加など

① ヴュルツブルク市との市民友好都市提携、シーボルト博物館等視察

ヴュルツブルク市は、シーボルトの生誕地であり、シーボルト協会等との連携により、長崎市のシーボルト記念館とヴュルツブルク市のシーボルト博物館は友好博物館の提携、ツェッペリン氏にシーボルト記念館名誉館長委嘱、長崎大学とヴュルツブルク大学が学術交流協定を締結するなど各種の交流が重ねられている。

シーボルト教会役員(シーボルト協会会長:ツェッペリン伯爵、同理事長:ウド・バイラス氏、同顧問ラングナー氏)はじめ、多くの関係者に歓迎を受けるとともに、シーボルト博物館の視察を行い、詳細に亘って説明を受けた。多くの資料等が展示されており、長崎のシーボルト記念館などとの交流の状況や長崎に寄せる思いは特別なものがあることを強く感じた。また、何回となく長崎市を訪問されており、ヴュルツブルク市との交流の中心的な役割を果たしていることを実感した。また、シーボルトの功績はヴュルツブルク市では格別なものであり、大学をはじめ街中にもいろいろな形で残されており、協会の活動も十分認知されていることを知ることができた。

昨年12月末にシーボルト協会理事長 ウド・バイラス氏夫妻が、長崎を訪問された際に長崎市都市計画部長の紹介で、琴海地区を訪問された折に、琴海の全体説明や田舎暮らしのリーダー金子さん宅や私の家にもお出でいただいたが、まさかドイツで会えるとは思ってなくて、親しく再会できてその時のことを話し合えて感激いたしました。

また、ヴュルツブルク市とは、行政間においても平成8年以降継続して市長、議長等により交流が継続されており、今後市民や市民団体等が自由に交流を強めることにより、両市の連携を強固なものにし、友好交流をさらに発展させることが大いに期待できる。

今回の、「市民友好都市」提携確認書調印式には、ゲオルク・ローゼンタール市長、中根猛駐独日本大使をはじめ、多くの関係者の出席のもと、議場において厳粛な中に執り行われ、そこに同席し、私たちが署名されたことは、深く感銘を覚えた。

丁重なもてなしと応対をしていただいた、ヴュルツブルク市関係者に心から感謝を申し上

げます。

ヴュルツブルク市内の状況は、マリーエンベルク要塞から見る、ヴュルツブルク市内の景色は、多くの著名な詩人や作家が「まるで地上の楽園のように見えた」と賛美しているように素晴らしい建物、景色が街全体に広がり感動した。

キリアン大聖堂や「ヨーロッパで最も美しい司教館」と言われる、レジデンツは目を見張るものがあり、階段の間や皇帝の間など圧倒され、これぞ世界遺産だと実感した。

街全体もゆったりとして、みんな余裕があり、人生を本当に楽しんでいるように感じた。

② モナコ公国：世界新三大夜景の交流・市役所表敬訪問および宮殿等視察

昨年10月「世界新三大夜景」にモナコ、香港、長崎が認定されたことで、モナコは地中海に面した港町ということしか知識はなかった。フランスのニース・コートダジュール空港からバスで行ったが、モナコ公国(通称モナコ)は坂の街で、狭い道路でカーブが多く、地形は長崎に似た感じがした。モナコは、フランスによって防衛されていて、軍事力は有しておらず、警察部隊のみであるが、人口65人に1人の割合で配備され、街中に監視カメラが設置されていて治安は世界トップレベルということである。

「エルキュール港」には、見たこともない超豪華なクルーズ船が、港狭しと停泊し、富裕者が高級マンション、ホテルなどに住み、まさに高級リゾート地であることが実感できた。また、F1モナコグランプリが5月に市内の普通道路で開催されることから観客のスタンドが設置中であった。ロレックス・オープンテニスも開催中であり、多くの観客で賑っていた。サッカー場なども整備され、大会開催日は多くのサポーターで埋め尽くされるという。各種の国際大会が目白押しでありながら、駐車場広場が見当たらないが、土地がないので、すべて地下駐車場を数箇所設けており、駐車場が不足することはないという。

モナコの夜景は、カジノに代表される建造物、宮殿、高級マンション、ホテルなどライトアップされ、港の夜景と一体となり素晴らしい光景を見せていた。また、環境面にも十分配慮され、ごみ等を見ることはない。清掃人等も十分配置され、美しい、清潔な街で観光に重点を置いていることと財政的に余裕があることを実感した。モナコ市、モナコ日本協会、駐日モナコ公国大使・パトリック・メドゥサン氏など要職の方々に歓待していただき心から敬意と感謝を申し上げたい。

③ スイス：【国連欧州本部】NPT再検討会議第2回準備委員会参加など

国際連合欧州本部でのNPT再検討会議第2回準備委員会を傍聴、国連欧州本部図書館長表敬訪問、軍縮会議日本政府代表部・天野万利大使表敬訪問(長崎ユース代表団8名、松井一實・広島市長等同席)、長崎ユース代表の発表、国連本部内の長崎原爆展示場などを訪問し、いろいろなことを直接見聞、体験することが出来勉強になった。被爆関係資料の展示には、国連関係者の理解を得て、展示品の内容方法など工夫する必要があるように思えた。

被爆地の長崎が発している、核兵器廃絶を国際世論に訴える絶好の機会であり、意義深いものであることを実感した。しかし、世界では夫々の国の事情があり、核廃絶を理解してもらうには、時間をかけて、様々な機会を通じて粘り強く継続して行かなければならないことだと強く感じた。また、天野万利特命全権大使の言葉に、世界の実情をしっかりと勉強する必要があること、日本の立場もいろいろな考えがあることも言われたのが印象に残った。しかし、被爆地長崎市民の願いである核兵器廃絶は、世界各国に何の理由があろうとも、厳しい問題があろうとも、紛争をなくし、世界中が平和でなければ幸せにはなれない。核兵器の非人道性を、今までにも増して強く呼びかけ続けていくことが、絶対必要と痛感した。私も被爆者として、しかも爆心地からわずか1kmでの直爆で、体中に傷を負い苦しい体験をしているので、二度とこのようなことがあってはならないし、阻止しなければならないと思っている。

長崎ユース代表の発表は、被爆の悲惨な状況を映画として使い、視聴者には強い説得力があり大変良かったと思った。

長崎を最後の被爆地にすべき活動を歴代の市長、議長はじめ多くの関係者が継続実施しておられることに敬意を表するとともに、さらに活動を広く強力に展開していく必要性を痛感した。今回のジュネーブ訪問で、天野万利特命全権大使及び職員、猪又忠徳独立監査官など民間の方々も、長崎にいろいろな形でご協力ご支援いただいていることを知り心から感謝申し上げます。

また、天野万里大使や猪股忠徳監査官には、大変お忙しい中、詳細に亘りご指導いただき、心からお礼を申し上げます。

今回の欧州訪問には、市長、議長、部長、職員、議員6名が同行したが、私にははじめての欧州訪問で、厳しい行程の中、被爆地の長崎市には欠かせない、平和行政の必要性、観光行政など国際的な視野に立って対応しなければならないことなどを学び、体験することが如何に貴重なものであるか再認識した。この体験を今後の議会活動の中に十分活かせるよう努力して行かなければならないと強く感じた。